

I 自己評価

1 学校教育目標	1 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 2 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、課題解決のため主体的に協働できる生徒 ・互いの人格を尊重し、主張や意見を交流しながら、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・郷土を愛し、地域の発展のための課題解決を目指す生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・課題の発見、解決能力を伸長するための「主体的・対話的で深い学び」 ・「探究的な学び」の推進 ・ICTを積極活用した教科指導・探究的な学びでの、コミュニケーション能力と情報発信力の育成 ・生徒の個性や長所を伸ばすためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒 ・高い志を持ち、その実現のために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・生徒会活動や部活動、地域活動などに自主的、主体的に参加し、より良い学校や社会を築いていく意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	進路指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒対象アンケートにおいて「本校では、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」「本校では、生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。」は2項目ともとてもよくあてはまるが60%を超えているが、保護者対象アンケートでは「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。」「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている。」ともよくあてはまるは45%と低い水準になっている。生徒が保護者と進路に関して話す機会が少ないことや保護者が積極的に生徒の進路決定に関りを持っていない状況が考えられる。今後は家庭内でいかに進路の話をしてもらえるか、保護者にどのようなメディアを通して情報発信をしていくのか、また進路情報を生徒と保護者がいかに共有できるのかを工夫しなければならない。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) キャリアパスポートを活用し、自己実現に向けて主体的に取り組む態度を育てます。 (2) 地域社会と緊密に連携したキャリア教育を進め、積極的に社会貢献できる人材を育てます。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・両キャンパスごとに管理職、企画委員会を中心にして、各教科学科と学年会と連携をした組織。 ・管理職、教務部を中心として両キャンパス統一的に進める組織。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 個々の生徒の進路希望により添い、生徒が自己達成感をもって進路決定をできる丁寧な進路指導を実践します。 (2) 看護・国公立大コースは、国公立大学合格率30%、その他の進学希望者は第1志望校への合格を目標とします。就職希望者の内定100%を達成します。 (3) 進路だより、進路ガイダンス、ホームルーム活動を通して、進学・就職共に必要とされる進路情報の積極的な提供に努めます。 (4) 国際社会で活躍できる、広い視野と資質をもった人材の育成に努めます。	(1) 行事後のアンケートにより、「何ができるようになったか」という振り返りをするることによる、その達成感の評価 (2) 数値目標の達成 (3) 生徒、保護者に対する外部評価 (4) キャリアパスポートの取組とその記述内容 (5) 実用英語検定、全商英語検定、農業技術検定の合格率		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<p>①個々の生徒にあわせた進路指導を学科や学年団と連携し実施した。</p> <p>②学年や学科の専門性を活かしたインターンシップ、進学・就職ガイダンスなどを通して、生徒個々の進路意識の向上に努めた。</p> <p>③進路だより、進路行事、ホームルーム活動を通して、進路情報の提供に努めた。</p>	<p>①学科や学年団と情報共有し、個々の生徒の進路希望を把握できたか。</p> <p>②ガイダンスや進路行事を通して、生徒の取り組みが主体的になったか。</p> <p>③国際社会に対応した、広い視野と資質をもった人材の育成ができたか。</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
12 成果 ・ 課題	<p>○学科や学年団と協力しながら個に応じた丁寧な進路指導を行うことで、学年が進むにつれて生徒が主体的に企業研究や学校研究に取り組めるようになってきている。地元企業の協力により、生徒がキャリアを考えるきっかけとなる行事の実施ができた。</p> <p>○1年生からのキャリアパスポートの活用により、全学年で計画的に使用できるようになった。</p> <p>○今年度は進学希望者にはオンラインを活用しながら就職希望者へは対面での進路ガイダンスを3年ぶりに実施することができた。</p> <p>▲新学科編成（新学科、群募集）へと移行する中、学科の特徴を活かした進路開拓が今後の課題である。</p> <p>▲大学受験指導に対する組織的なコミット不足を改善し、3年間を見通した計画や指導方法等の情報共有を推進し、個々の教師の力量に依存しない進学指導を確立し、進学実績を向上させる必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個を重視し、3年間を見通した進路指導を担任と協力しながら、低学年から卒業後の進路を意識した援助体制の確立を目指す。 ・大学入学共通テストへの低学年からの取り組みと総合型選抜および学校推薦型選抜に向けた小論文指導や面接指導の充実を図る。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月27日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛騨高山高校から来春、当社に就職してくれる一方で、なかなか大学や専門学校に進学しても地元に戻って来る若者が少ない状況が高山の企業全体としての悩みである。ただ、他県から高山に憧れて就職してくれる学生もいることから、地元の高校生に地域の魅力を伝えるとともに地元を支える人材づくりを企業と学校が手を取り合っ、取り組んでいかなければならない。 ・明確な進路希望をもって、様々な特色ある学科をもつ飛騨高山高校に進学してきても、その希望を活かせる仕事が飛騨には少ない状況もある。そのため、地元を離れていく生徒もいるのではないか。地元でも夢を叶えることができるように企業も努力をしなければならない。 ・入試方法だけでなく、将来の進路も多様化しているので、指導は大変だと思いが先生方にはぜひ、頑張ってもらいたい。
